

社会福祉法人 宝安寺社会事業部

福祉ほうあん

VOL. 130



【特集】

法人ビジョン2032

令和5年度報告

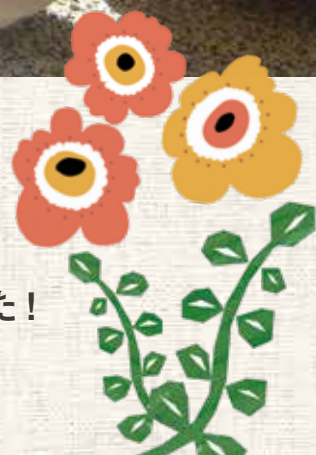


いっしょだから、
見えてくる世界



1年間で関わってくださった

みなさまからのメッセージを集めました！



法人の理念

仏教の慈悲の精神に基づく福祉の実践

人の喜びを我が喜びとしてその人とともに喜び

人の悲しみを我が悲しみとしてその人とともに悲しむ

そして自分を律し高めつつ、人のために働き、人の幸せのために力を尽くす

このことを自身の成長と幸せの糧としていきます

慈悲の精神をもって地域社会の福祉の向上に貢献します

基本方針



1 福祉サービスの充実

保育・療育・支援の質を高める

- ・法人職員の支援の基礎をつくる
- ・将来を見据えた支援を行う
- ・社会参加に向けた支援を行う

2 地域貢献と地域交流

暮らしやすい地域づくり

- ・地域を理解する
- ・地域との連携を深める
- ・持続可能な社会づくりに貢献する

3 人材確保 人材育成

将来の担い手を育てる

- ・自分の専門性を生かせるやりがいのある仕事ができる職場をつくる
- ・働き続けられる環境を整備する

4 権利擁護 虐待防止

尊厳を守り、幸福を追求する

- ・虐待の芽を摘む
- ・権利擁護を推進する

5 経営基盤の強化 運営組織の強化

持続可能な組織づくり

- ・運営組織を強化する
- ・持続可能な運営のための転換に取り組む

事業内容：第一種社会福祉事業・第二種社会福祉事業（保育・療育・障害）・公益事業（診療所）

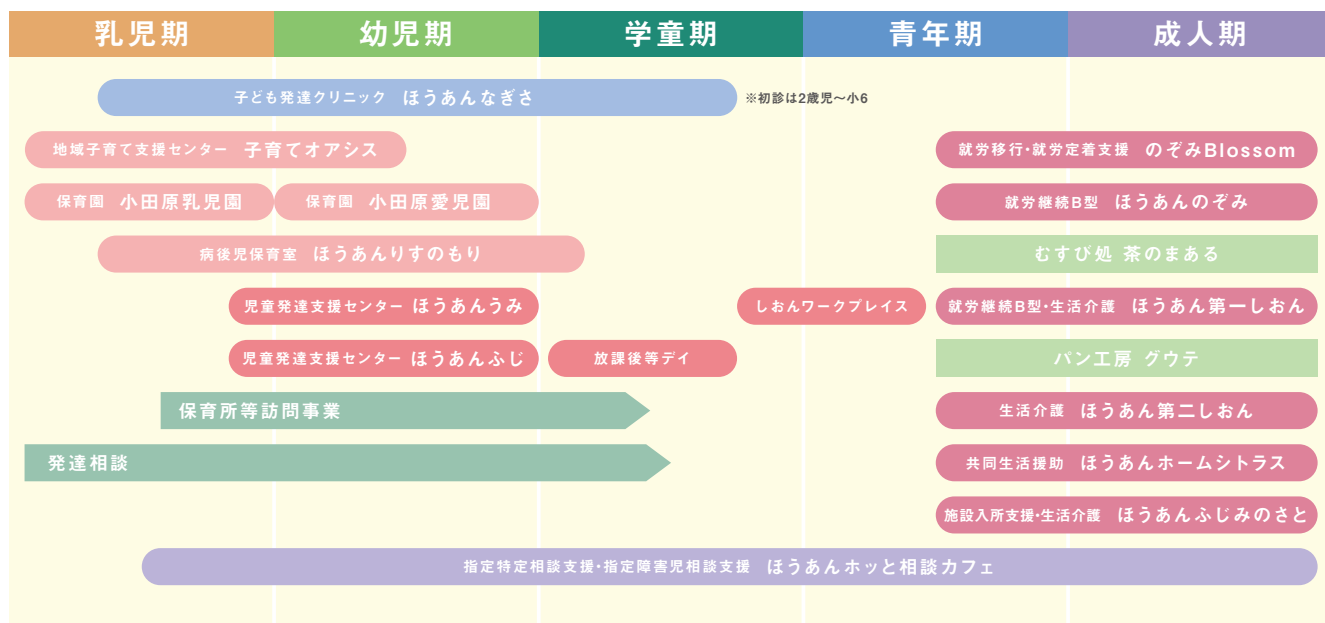
設立：1952年（昭和27年）5月17日

代表者：大水健晴

職員数：304名（令和5年10月1日現在）

事業所：保育園 2カ所／児童発達支援センター 2カ所／障害者支援施設 1カ所／障害福祉サービス事業所 3カ所
相談支援事業所 1カ所／診療所（児童精神科医療）1カ所

▶ 法人の実施する主な事業 ～人の育ちと発達によりそいながら成人期まで～



はじめに

昨年に法人ビジョン 2032 を発表し、この一年、沢山のことがありました。
一緒に未来に目を向けてくださった沢山の仲間や応援をいただいた皆さまに
私たちがビジョンに向けて歩んだ最初の一年をご報告します。



- 注文をまちがえる あつまあるかふえ <地域共生社会>
- 子ども食堂まんまるほっぺ様とのコラボ <地域共生社会>
- 小田原愛児園100周年記念ありがとうデイ <保育分野の改革>
- 高齢化指標づくりプロジェクト <高齢化への対応>
- 親なきあとの不安解消に向けた勉強会及び相談会 <高齢化への対応>
- 就職したBlossom卒業生と就職を目指す若者たちの茶話会 <障害者雇用の推進>
- 利用者さんが同僚となって一緒に働く障害者雇用の推進 <障害者雇用の推進>
- 災害ボランティアチームDARST様との防災連続研修 <地域防災>



子どもたち、利用者の皆さま、ご家族、地域のさまざまな方々との交流を通じて、
他にも多くの印象的な取り組みとエピソードがありました。
またそこに至るまでに重ねた、もっと多くの試行錯誤や軌道修正がありました。
話し合いを重ね、全てが将来に生かされていきます。



今回はその一部ではありますが、まだまだ未熟な私たちを、
いつも温かく見守って下さる地域の皆さまへの感謝とともに、ご報告したいと思います。

Contents

法人の理念	02	VISION3 保育分野の改革	06	VISION10 地域防災	12
はじめに	03	VISION7 高齢化への対応	08	地域移行に向けた取り組み	14
VISION1 地域共生社会	04	VISION9 障害者雇用の推進	10	手から手へ	15

法人ビジョン
01

地域に根ざした社会福祉法人として、
地域住民とのつながりを深め、
共に「地域共生社会」をめざす

10年後の
あるべき姿

- 1 地域とのつながりが生み出されている。
- 2 様々な機関や団体と連携が取れている。
- 3 ソーシャルワークの視点を持った職員が育成され、活躍している。

取り組んで
いること

認知症理解啓発イベントや、子ども食堂とのコラボなど
多様な形で地域とのつながりを創出しています。



相洋ウインドアンサンブルさんによる
コンサート



絵や書道の
個展

むすび処 茶のまある
みんなで作ろう！
地域のお茶の間

おちゃのまTrainが
取り組みを紹介します！

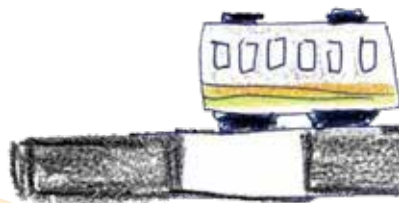


Pickup 01

「注文をまちがえる あつまあるかふえ」
プロジェクト

認知症の方だって、まだまだ働ける。時々注文を間違えるかもしれない。でもこっちは美味しそうだし、まあいいか。そんなおらかな気持ちで広がることを願っています。

プロジェクトメンバー
ほうあんのぞみ、小田原市グループホーム・小規模多機能連絡会、
地域包括支援センター（しろやま・はくおう）、
小田原市社会福祉協議会、小田原市高齢介護課



のぞみ(B型事業所)
お弁当作りや
配達もやっています!!



注文をまちがえる
あつまあるかふえ

ひろがる



悠久ほたるだ 川井様

「地域の中でのグループホーム」がこのイベントを通して可能になりました。多くの支援者との出会いによって、認知症の方々が地域とつながっていく架け橋になったと感じています。間違いが許されないような窮屈な世の中になりましたが誰も間違えたり、失敗したりします。それで良いじゃないですか！認知症のおじいさん、おばあさん。瞬間、瞬間の記憶の中で、泣いたり、笑ったり、怒ったり…機械には到達できない、人間にしかできない素敵な毎日の感動をありがとう！貴方たちと共に笑い、共に過ごす日々が幸せです。



地域包括支援センターしろやま 府川様

初めて行った「注文をまちがえる あつまあるかふえ」では、入念な準備を行ってきたとはいえ、不安な事が多くありました。そんな心配をよそに、ご参加頂いた方々の表情は笑顔に溢れ、時間を追うごとに接客にも自信を持って対応されていて、温かい気持ちになりました。認知症になってもすべてを忘れてしまうわけではなく、周りの方の理解があれば、輝ける場所ができるということを知って頂けたのではないかと。また、茶のまあるで行う事によって、障がい者への理解も深められるのではないかと思います。

むすび処 茶のまあるが出来て、はや7年目に入りました。

ふらりと人が集まる「地域のお茶の間」を目指して、ほうあんのぞみの利用者スタッフと頑張っています。時に歌って踊るスタイルで感謝を示す利用者スタッフ、それに手拍子で応えてくれる常連さんを見て、なんて愛に溢れたお店なんだろうと自画自賛しています。お店の外でも挨拶を交わす顔なじみを思い出すと、心から地域の方々に支えられていると感じるのです。茶のまあるは、音楽会やサークル、体操教室、

子ども食堂など様々な活動の場になっており、壁には地域の方々の作品が飾られ、個展は40回を超えました。認知症、障害、老若男女、子どもたち、ごちゃまぜな茶のまあるは、社会の縮図のようです。

これからも、茶のまあるは地域と方々と支え合い、人と人がつながり、みんなの笑顔が広がっていく居場所を作っていきます。

(ほうあんのぞみ 主任 藤井映子)

Pickup 02

小田原愛児園×こども食堂まんまるほっぺさん

コロナ禍で、行事や地域イベント等の交流が無くなり、増々「孤」の時代へ。そんな中、愛児園近隣地区で子ども食堂が立ち上がると聞き、職員が訪ね、お手伝いをしていくなかで子育てサロン「オアシス」の利用者も含まれていることもわかり、つながりを持つようになりました。

「まんまるほっぺ」は、地域の幼稚園・保育園・小学校に通うご家族が、常時50組前後利用しています。他の子ども食堂に比べ、乳幼児のご家族の利用が多いのが特色です。配食がメインでしたが「親子がゆっくり、食事と癒しの時間が持てる機会を作りたい」という想いをお聞きし、茶のまあるを使うことを提案しました。一緒に行くことで毎回多くの親子が参加しています。

求められているのは、「人と人とがつながること」。これからも自然な形で、「子どもたちの未来に・子育てに・地域に」伴走する、小田原愛児園・乳児園を目指したいと思います。

(小田原愛児園 課長補佐 石川和代)



体操教室

日本語教室



なりわい交流館での朝市
(畑で育てた野菜販売)

絵本の
よみかかせ会



こども食堂まんまるほっぺ グリッド店主 伊藤シェフ

私は三の丸小学校そばにグリッドというお店でパンデュージョやシフォンケーキを販売しています。私は食を通じて、子どもたちの未来を少しでも温かく明るいものにできればと思い、仲間とともに子ども食堂「まんまるほっぺ」を始めました。この地域は子育て世代が多く暮らし、小田原愛児園・乳児園とのご縁もあり、支援者同士のつながりにより幅広い取り組みができるようになりました。私の喜びは、子ども達の「美味しかったよ」の笑顔です。これからもたくさんの笑顔が溢れるように細く長く活動していきたいです。

次は、「あなた」とつながりたい♡

この地域には、

様々な想いをもちた方々が暮らしています。

そんな方々が茶のまあるでの出会いや活動を通じて、

たくさんの笑顔の輪を広げていく！

そんな未来を私たちは想像しています。

まだ見ぬ誰かの笑顔や幸せは、「あなた」の手の中にあります。

一緒にまあるい地域を創っていきましょう。

みんなに幸せが
おとれますように

法人ビジョン
03未来の子どもの幸せのための
保育の形を表現する10年後の
あるべき姿

- 1 「こどもまんなか」の保育が実現されている
- 2 小田原乳児園と小田原愛児園で一貫性のある保育プログラムを行っている
- 3 保育スタッフが生き生きと働いている
- 4 地域との信頼関係が築かれ、地域と共に子どもたちを育んでいる

取り組んで
いること

こどもまんなか保育

「子どもたちがやりたいことを見つけて、方法を考えて、達成していく」
子ども主体の保育への取り組みに挑戦しています。

Episode

お泊まり保育で
どんなことをしたい？

子ども達が輪になって対話
や意見交換を行う活動。
子ども達の「やってみたい」
を1つ1つ一緒に考えます。

サークル
タイム

おみこし作って
かつぎたい！

みんなで自分の考えたおみこし
を描いて貼っていました。
どんな形？色は？どんな飾り？

上の方は
カラフルにしよー

みんなのアイデアを
形にしていきました。

土台は
金と銀が
いいね

お花いっぱい
つけたいね

※
おだわらの
おまつり
みたいなの
がいいな

※「おだわらのおまつり」
地元の松原神社のお祭りでは
独特の＜小田原担ぎ＞で
お神輿を担ぐ大人が子ども
たちの憧れの的です。

小田原流



秋の大運動会では、おみこしパレード
でオープニング！競技ではクラス対抗親
子おみこしリレーで盛り上がりました。

わっしょい！



お泊まり保育当日は完成したおみこし
をかついで園庭や駐車場を歩きました。

わっしょい！

やったー！
できあがりー！

ドラゴンも
つけたいね



みんなのアイデアがたくさん
詰まったおみこしが完成！！

※ 異年齢児との交流 ※

「小さい子も大きい子も一緒にあそぶと楽しいね！！」

0歳児～6歳児が縦割りグループを作り、一緒に遊ぶ日があります。



「ねえねえ、ばくとおてつないで」



「おとなりへハイ！」
上手にボールを回せるよ。



みんなで一緒にパラシュートをやっ
てみよう！



おにいさん、おねえさんのおひざの
上に座らせてもらえて大満足！！



小田原愛児園 100 周年記念 「感謝祭♡ありがとうデイ」

関東大震災の発生をきっかけに小田原愛児園は 100 年の長さを小田原の人々と共に過ごしてまいりました。卒園児や保護者、地域の皆様に数多く助けられ、励ましをいただき、温かな心でつながる今があります。

令和 5 年 6 月 24 日には感謝祭を開催する運びとなり、当日は 1,000 人以上の在園児、卒園児、保護者の皆様、地域の皆様にご来園いただき誠にありがとうございました。当日は小田原愛児園・乳児園職員一同、また法人の成人利用者さんたちや後援会の協力を得て、たくさんのお客様をお迎えすることができました。来園者の懐かしい笑顔は、まるでタイムスリップしたかのように、当時を思い出されました。

これからも子どもたちの未来に向かってより良き保育を目指し続けてまいります。今後も温かく見守っていただけますようよろしくお願いいたします。

(園長 椎野あい子)

やもと問唔様 ライブ



「ほうあんにこにこ体操
はじまるよー♪」

小田原愛児園で毎朝行っているオリジナル体操の制作者のやもと問唔様の生歌で元気に体操してスタートしました。

やもと問唔様より

子どもたち、保護者や地域の皆様を始め沢山の方々に見守られる中で、ほうあんにこにこ体操を生演奏でお届け出来たのは感無量でした。毎日、園児の皆さんと先生方がこの体操で一日を始めていらっしゃると思うだけで僕の心の中にも優しい風が起きます。

愛児園の給食の大人気メニュー、カレーライス！昔はカレーパーティーがあったね、さつまいや揚げパンも懐かしいね！



屋台



ほうあんのぞみかき氷ブースは大人気！
(協力：(福) 惣 理事長 山田様、
(株)五神建設 社長 石井昇様・いつみ様)

卒園児さんの所属する 相洋ウインドアンサンブル様 ふれあいコンサート



保育士も一緒に手遊びをしたり、歌を歌ったり大変盛り上がりしました。

ゲーム コーナー



夏祭りといえば、射的・輪投げ・ボウリング。懐かしいね、大人気でした！

PTA による ヨーヨーコーナー



PTA 役員の OB の皆さんがお手伝いに来てくださいました。

キッズテニス 教室



後援会の協力でキッズテニス教室やガラガラ抽選会を行いました。(協力：内田俊正様)

ガラガラ 抽選会



卒園生が大きなお兄さんお姉さんになって遊びに来てくれました！会えて嬉しかったよ、また来てね。

ありがとう！ 100周年



100 年の歴史や、近年取り組んでいる SDGs 保育、『子ども主体の保育』への保育の変化を紹介しました。「えっ？この写真○○ちゃん!？」と懐かしい写真を見て思い出トークも弾みました。

PTA 会長 石井綾子様より

在園児のみならず、地域の方も楽しめたイベントだったと思います。卒園児の兄は小学校の卒園児仲間と参加し、先生方と懐かしの再会をしていました。在園児の妹は物事がわかるようになってからのお祭りが初めてで大興奮でした。イベントを開催してくださった関係者の皆さま、本当にありがとうございました。卒園すると、なかなか保育園に来る機会がないので、このようなイベントがまた良いなあと願っています。

保護者の方々より

・子ども達と触れ合うブースだったので楽しくできました。
・大人も子どもも卒園児も参加できて貴重な時間だったと思います。コロナの影響もあり、「みんなで一緒に!」というイベントが開催出来ていなかったもので、尚更嬉しかったです。

法人ビジョン
07利用者の高齢化に
備えるための対応力の強化10年後の
あるべき姿

- 1 生活動作や身体機能の変化に応じた個別プログラムの提供
- 2 高齢福祉施設との連携強化、利用者になるべく負担のないスムーズな移行
- 3 将来の高齢化に向けて、職員が良きアドバイザーとして専門性を発揮

取り組んで
いること

高齢化による退行現象の指標づくり
他法人の高齢福祉施設との交流
成年後見制度の活用を推進

気がつく

高齢化の指標づくり

「高齢化による退行現象の指標づくり」に取り組み、質問項目と評価の目安を作成しました。
 現在、仕様マニュアルを作成中で、作成後の試行を経て、法人内で本格実施をします。

取り組み

- ・高齢化に伴う退行現象を5つの分野に分けて指標づくりを行うことにしました。
- ・「身体機能・能力、感覚」、「ADL（日常生活動作）、生活習慣」、「病理」、「認知機能、言語・理解」、「情緒・感情、興味・関心」の5分野で、各10問のテストを行い、合計50問の回答を点数化したものです。
- ・医師や心理士でなく支援員が実施、評価するのが特徴です。

模擬評価テストを実施した職員の感想

ほうあんのぞみの2人の利用者さんに身体・認知等の模擬評価テストを取り組みました。
 日々利用者さんに接して感じることに加え、評価テストがあることで退行現象は見つけやすくなると思います。
 その後、評価テストを受けた一人の利用者さんが、自転車で転倒し、ケガをするという事故が発生しました。退行現象を把握していただければ、高齢化の指標づくりの先にある事故やケガ防止の取り組みも必要であることを再認識しました。
 利用者自身の退行現象への理解や身体的な機能訓練等通じて事故やケガの防止とともに、障害があってもいつまでも本人らしく暮すことが出来るよう様々な対応が必要になってくると思います。

（ほうあんのぞみ 主任 伊藤肇昭）

検索できる限り、知的障害者の退行現象における指標を調べましたが、どの研究や論文にも、退行現象の結果やそれに伴う支援内容の変更の取り組みなどの報告しか見当たりませんでした。
 そこで、独自に指標づくりを行い、半年や1年前の利用者さん自身の結果との比較で退行を客観性をもった結果を出したいと考え、令和3年度にプロジェクトを発足させて取り組んできました。
 現在は、50の設問ができましたが、詳細な取扱い説明が完成していません。今年度中に作成して、各事業所で試行できるようにしたいと思っています。

（ほうあん第二しおん 所長 吉澤宏次）

／ できるかな…？ ／

身体機能・能力、感覚や認知・言語理解に関する項目から5つの設問の評価テストを行いました。利用者さんは、初めは戸惑っていた様子でしたが、テストが進むとスムーズに回答してくれました。半年や1年後の再評価時に正確な評価をするために、どのような説明の仕方をしたのか記録し、同じ条件で評価テストを行う必要があります。高齢化に伴う退行化の指標は、過去のご本人との比較を客観的に評価し比較検討するものです。この比較に基づき退行を正確に捉え、日中活動や生活支援の仕方の参考にすることが目的です。



つながる

高齢福祉施設との連携

他法人の高齢福祉施設との交流を積極的に行います。
共生型短期入所で障害者を受け入れている施設と、認知症とは異なる知的障害者の特性に関して勉強会や意見交換の開催を準備しています。

取り組み

- ・共生型短期入所で障害者を積極的に受け入れて改めて感じた疑問や課題をテーマに勉強会を行う。
- ・丁寧な意思決定に基づく生活の場の検討を行う。



共生型の短期入所をはじめて1年が経過し、多くの障害のある方の受け入れをしました。

「発作が起きたらどうしよう」、「障害特性がわからない」など、当初は不安が強くありましたが、高齢者には見られない行動に対して、「なぜ、この行動をしているのか」、「何を要求しているのか」など、考察する習慣が身につきました。そして、行動の目的や対処が見つかった時に不安が喜

びとなり、その喜びが職員全体に広がりました。さらに、その喜びが在園している高齢者の方への支援がより一層優しいものになり、職場全体が明るくなりました。まだ、試行錯誤ですが、障害のある方を受け入れたことのメリットを日々実感しています。

社会福祉法人 小田原福祉会 潤生園
短期入所生活介護係長 片倉佳美様



受け継ぐ

成年後見制度の活用推進

成年後見制度の活用を推進すべく、各事業所で推進担当職員を設けました。
また、令和2年度から司法書士会の協力を得て個別相談会を実施しており、昨年度は相続や遺言状の書き方など、ミニ勉強会の開催をしました。今後は、職員もともに勉強できるようにしていきます。

取り組み

- ・司法書士会の協力を得て個別相談会を継続実施する。
- ・また、親なきあとの問題について、ご家族ともに職員もより相談者になるよう一緒に勉強を行う。

障害のある子の「親なきあと」相談室小田原
代表 松浦克様



「親の気持ち」と「障害のある子の気持ち」が違っていることもあります。親としては子どものことを考えるあまりにこうした方が良く、こうした方が良く決めてしまうことが少なくないありません。そして、子どもを支援してくれる人を増やすことが重要だと思います。家族だけで考え込まず、地域を巻き込む、顔を覚えてもらう、すれ違えばあいさつをするという人が少しずつ増えていけばと願っています。

「親なきあとの不安解消ミニ勉強会」 参加者の感想

- ・第三者での成年後見人を考えていたが、費用面について心配でしたが、本人の収入の範囲内であることがわかり安心しました。
- ・相談の窓口がいくつかあることがわかり、よかったです。
- ・子どもたちも含めて家族でよく話し合うことが大切だと思った。

加齢が進んでも
その方らしく過ごしていただいています



大好きな職員と関わることで笑顔が多く見られています。
人との関わりが日々の活力につながり、
お仕事を任せられることが自信と意欲につながっています。



法人ビジョン
09

障害者雇用の促進を行う

10年後の
あるべき姿

宝安寺社会事業部が法定雇用率を維持できるように、浜町地区、根府川地区、大沢地区においてジョブコーチを配置し、障害者が働ける業務を模索し、障害者を受け入れられる職場作りができていくこと。

取り組んで
いること

**法人内において障害者雇用率の達成と維持に向け
フォローアップ体制の構築に取り組んでいます。**

こんな活動もしています！

卒業生との茶話会

ほうあんのぞみ就労移行支援事業所より
企業等へ就労した方々との茶話会を行いました。

就職を目指す利用者への情報提供と
就職された方のサポートのため、
就職して良かったことや今の悩みなどを
就職した皆さんと共有しました。



茶話会の後は、お菓子の掴み取りで盛り上がりました！



ブロッサム利用者の感想

- どのように就職したのか、なぜその仕事を希望したのか、具体的な就労の条件等、実際に就職した方の話を聞くことができ、とても勉強になりました。
- 今まで一緒に仕事をしていた方が働いている様子を見て、自分も就職したいと思いました。
- 仕事の内容を詳しく説明をして、すごいなと思いました。



卒業した就労者の感想

私たちの仕事の様子を聞いていただきありがとうございました。仕事を続けられるようにこれからもがんばりたいと思います。皆さんもがんばってください。

進捗報告

現在、障害者雇用6名であり、法定雇用率は達成しています。

雇用形態:週30時間以上4名、週20時間以上2名

職種:職業指導員2名、清掃及び職員補助業務1名、清掃員1名、調理及び保育補助1名、送迎業務1名

毎年雇用率が段階的に引き上げられ、令和5年度は2.3%、令和6年度は2.5%、令和7年度は2.7%になる予定です。

利用者から職員になりました！

坂本剣心さんに
インタビュー2023年4月より、
ほうあん第一しおん
パン工房にて勤務

Q パン工房で職員になって働いてみてどうですか？

A. 職員になりたい気持ちがあり、叶ったのでとても嬉しいです。調理が好きなので仕事でも調理ができてとても楽しいです。利用者さんと話をしながら仕事しています。困ったことも聞きます。職員になって利用者さんの時よりも責任感が強くあるので、仕事のやりがいを感じています。利用者から職員に変わって、他の職員さんから対応が変わるか不安でしたが優しく教えてくれているので良かったです。

Q 仕事で心掛けていることはなんですか？

A. お客様に丁度良い焼き加減で美味しいパンや菓子パンを作れるようにしています。利用者さんが怪我しないように仕事しています。困ったことがあったら他の職員さんにすぐ聞くこと、利用者さんが楽しく仕事できることを心掛けています。



ミキサー作業



計量作業



ドーナツ生地型入



オーブン作業



食パン作り

障害者雇用の先輩からメッセージ

僕は職員になってから10年目になり、最初は職員になれるのかなあと凄く不安もありましたが、しおんの職員さんの優しいサポートもあり、色々ありましたが、今では職員さんと頑張ってます。坂本さんも職員さんになり仲間が増えて嬉しいです。色々不安だと思いますが、頑張っしてほしいと思ってます。他にも仲間がほうあんのぞみの鳴瀬さんや、しおん菓子工房からほうあんふじみのさに行かれた早野さんもいて、仲間が増えて僕も嬉しいです。これからも色々あると思いますが、僕たちも障害ありますが、職員さんサポートよろしくをお願いします。

ほうあん第一しおん 赤津貴志

赤津さんは勤続10年で
小田原市の守屋市長から表彰されました。

Message



職員からの応援メッセージ

坂本さんは第一しおんの放課後等デイサービスで学んだ「あいさつなどの礼儀作法」、作業棟で学んだ「勤勉さと仲間とのコミュニケーション」。この経験を用いて利用者支援に取り組んでいます。今のままでもとても頼りになる存在ですが、もっと、もっと学び、いろいろ経験して、これからも、私たちと一緒に働く喜びを感じていきましょう！

ほうあん第一しおん 課長 池田敦

法人ビジョン
10

地域や行政、法人など様々な連携体制を構築し、
災害時にも貢献できる法人になる

10年後の
あるべき姿

- ・法人内部では BCP の策定され、職員への浸透及び人材育成が進んでいる
- ・地域との関係作りが進み、地区ごとに防災リーダーが配置されている
- ・災害ボランティア派遣や DWAT への参加ができています

取り組んで
いること

完成した事業所 BCP に基づいた訓練を実施。
また、適宜見直しと更新を行っています。

防災についての法人の取り組み

2011年3月11日、東日本大震災が発生。当法人でも大災害が起きた場合に備えた **BCP = Business Continuity Plan (事業継続計画)** の作成をスタートさせました。防災PT(現防災委員会)が発足して、「BCP って何」というところから手探りで BCP に必要な情報を集めながら、並行して職員にも理解・協力を仰ぎながら少しずつ作成してきました。2014 年から取り組み始めた活動も 8 年が経ち法人職員の防災意識も高くなりました。すべての事業において「防災」「減災」の意識の高まりを感じています。今年は **関東大震災から 100 年** という節目の年でもあります。今一度防災についてみんなで考えてみましょう。

START

2011

東日本大震災
発生

九都県市合同防災訓練参加



2014

宝安寺社会事業部
BCP 作成開始

2016

法人 BCP
完成

2020

事業所 BCP
作成開始

- ・メールシステムの受信訓練
- ・HUG 研修実施
- ・各地区の備蓄品確認
- ・防災研修の実施



2021

かながわ DWAT
登録

2021

防災ボランティア
チーム
DARST 研修

DARST 真壁氏参画

2022

事業所 BCP
完成

2023

訓練
見直し・更新

GOAL&START

- ・3地区合同BCP 防災訓練の実施
- ・業務影響分析・送迎心得作成
- ・出勤可否表による集合訓練
- ・送迎訓練実施



合同 BCP 防災訓練の様子

DARST 公開研修実施

- ・命をつなぐ非常食について
- ・災害事例から学ぶ風水害について
- ・写真復元士 思い出を取り戻そう
- ・マイタイムライン作成
- ・地震
- ・大規模災害時における犯罪の実態と防犯対策
- ・災害関連死、ペット防災
- ・土嚢づくり

防災クイズ

第1問：BCP とは？



1. 災害継続計画
2. 事業継続計画
3. 事業安心計画

第2問：東日本大震災発生時、東京ディズニーランドでも BCP が発令され、キャスト（職員）は自発的にある行動をしました。



1. 安全を確保して逃げた
2. ミッキーマウスと踊ってゲストを安心させた
3. お店の商品をキャストの判断で配った

対談

地域連携を学ぶ

災害ボランティアチーム DARSTは被災地のニーズに合わせて様々な専門技術や知識を持ったメンバーを集め、様々な災害ボランティア活動を行うヒーローのチーム。

2021年からリーダーの真壁賢一氏のご協力の下、当法人の防災研修を地域の方にも参加していただき計8回開催しました。実際にあった事例なども織り交ぜた研修では、たくさんの気づきや学びを得ることが出来ました。今回は地震大国日本と呼ばれる我が国において私たちに求められること、近年多発している風水害について等お話を伺いました。

聞き手：青木謙治（法人本部課長、防災委員会委員長）

青木：この1年間研修や事業所へのアドバイス等、いろいろな形で宝安寺社会事業部の防災について関わっていただきありがとうございます。真壁さんから見て、法人の取り組みはどうでしたか？

真壁：障害・児童福祉においてここまで組織化されてビジョンを持っている法人があることにびっくりしました。業務の一環として防災をやっているところが多い中でトップダウンだけでなく防災について考え、取り組んでいるのは率直にすごいと思いました。

ビジョンがしっかりと利用者（災害に弱い人たち）の目線に置き換えられていることが備蓄品を見てもよく分かりました。健常者と障がい者や乳幼児では備蓄するものや食べられる形態が違う方も多く、食べやすい工夫がされていると思いました。最近避難場所のトイレや寝る場所などの環境が求められている中で、よく考えられていると感じました。企業などは、お金や時間がかかる事はおざなりやすい傾向にある中で、私が見てきた企業や法人の中ではピカイチだと思いました。

青木：ありがとうございます。3地区にて事業を行っています。どの地区でも自治会や地域の方にお世話になっている事に災害時は改めて気づかれます。

真壁：他力本願ではなく災害が起きた時には法人全体でどのように支援していくかを考えていて意識の共通がされているなと思いました。

消防士時代には法人理念のようなものがなかったんです。その点では、宝安寺社会事業部は法人理念に向かって事業展開していくことで地域から愛され、地域で困っている人たちがいたら、



DARST研修での土のう作りの様子



災害ボランティアチーム DARST（ダースト）

助けを求める声があるからこそ、ヒーローたちは集結する…

<https://saigaidarst.jimdoofree.com/>

法人で出来ることは何なんだろうと考えている。法人理念に防災がマッチングしているんじゃないかな。普段の福祉の業務に当然生きてきているし、災害の時にも日頃の支援の考え方に生きるんじゃないかと思いました。

青木：近年の災害は地震だけではなく風水害による災害の方が高い確率で毎年のように起こっていますが、今私たちが出来ること、社会福祉法人として又、個人として出来ることは何かありますか。

真壁：自分だったら何が出来ると考えてほしい。

例えば、高齢の方などでも「話を聞く」ことだけでもニーズがあります。大丈夫だよって言ってあげることで落ち着く人がいればそれだけでも良いと思います。

ストレングス（強み）を活かすことを考えると「私は何が出来ると考えることが大事」です。

青木：地域とのかかわり方でアドバイスはありますか。

真壁：先日養護学校の先生と話している中で、学校で始まっているインクルーシブ教育が始まっているけど、防災こそインクルーシブじゃないかという話をされていて、福祉避難所なども必要だけど、まず命を助けるまでの話でインクルーシブを理解してもらわなきゃいけない。私たちはインクルーシブ・共生社会という畑を耕していく。芽が出るように地域社会との関係をよくしていくこと地域社会に貢献していく、携わっていくことが共生防災の第一歩だと思います。

事業所が企業とコラボすることで地域が障がい者を理解したり、受け入れる機会になっていると思います。

青木：障がい者を理解してもらうには私たちが地域を理解していくことも必要ですね。

最後にこれだけは、伝えたいという事はありますか。

真壁：宝安寺社会事業部が、地域に愛されるだけでなく、地域のカラーの一つになっていくことが求められるんじゃないかと思います。私達福祉関係者は、気が利くとか、頭の回転が速いとかそういうことも大事だけど、僕は、「とにかく優しい人」だと思います。優しい人じゃなきゃ弱者を守れない。慈愛の精神をもつまさに法人の理念だと思います。地域と連携していくことは非常にいいことだと思います。

障がいのある方々の地域生活移行を推進するために

神奈川県民間提案事業として当法人の取り組みが採択されました！

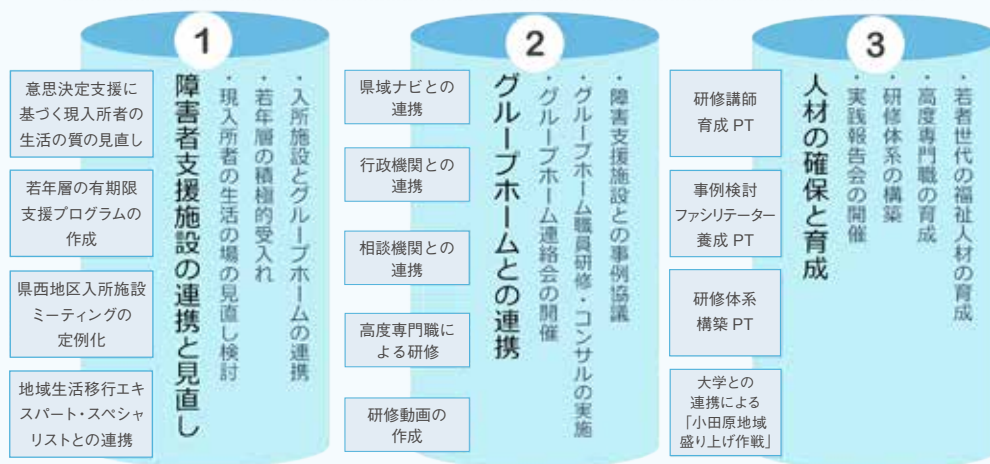
神奈川県が募集した「地域生活移行推進 民間提案事業」に宝安寺社会事業部の提案が採択されました（令和5年～7年度事業）。テーマは「地域の力を結集して、障害のある方の暮らしの選択肢を増やして、安心できる生活の場の提供をしよう！」です。

障がいのある方々の意思形成から決定まで寄り添うことのできる支援はとても大切です。県西部地区は、神奈川県が行っている「意思決定支援事業」に関しても積極的に取り組み、実績を示している地域です。意思決定支援はとても重要ですが、それだけでなく同時にサービスメニューを増やしていくことも大切です。意思を尊重できても、選択肢が

少なくでは自己実現の幅は狭いまです。そのため、支援者や支援機関がサービスメニューを増やすとともに、その質を常に高めていかなければなりません。

この考えのもと、今回の提案事業では3つの柱からなる事業展開を考えました。「障害者支援施設の連携と見直し」、「グループホームとの連携」、「人材の確保と育成」の3本柱です。県西部地区の施設長会をはじめとして、行政や関係機関の協力体制がより強固なものとなり、「県西地域が面白いことに取り組んでいる、支援の質が高く、利用者も職員も活き活きしている」と感じられるようになることを目指していきます。

〔県西部地区 地域生活移行推進事業 概要〕



応援メッセージ



小田原市福祉健康部
障がい福祉課様

日ごろ本市の福祉行政に多大なるご協力いただきありがとうございます。
本市では「一人ひとりが生きがいや役割を持ち、助けあひながら暮らしていくことができる「地域共生社会」の実現」を基本理念に、第3期おだわら障がい者基本計画を本年3月に策定いたしました。その中で「施設入所者等の地域生活への移行支援」に取り組んでいる小田原市といたしましても、貴法人が取り組まれている県西部地区地域生活移行推進民間提案事業は大変心強いものと捉えております。この提案事業に位置付けられた「グループホーム連絡会」の開催は、支援の質の向上や、経営改善までも目指した意欲的な取組として期待しておりますとともに、本市として適切な支援について考えてまいりたいと思います。これからもよろしくお願いいたします。



社会福祉法人永耕会
永耕園
施設長 河辺邦夫様

このほど宝安寺社会事業部が神奈川県の「地域生活移行推進民間提案事業」を受託された事を大変嬉しく思い、大いに期待するところです。
永耕園は今年設立60周年を迎えました。今、入所施設は大きな曲がり角を迎え、新たな方向に向けて進む事を求められています。「安心して生活できる場」である事は前提ですが、障がいを持たれた方も、その希望や特性に応じて「自分らしい暮らしの場」を実現していく大切な権利があります。入所施設は、その大きな資源を活用しながらグループホームや一人暮らしなど、その方が希望する生活に繋げていく柔軟な対応と支援が求められています。
永耕園も、県西部地区の仲間の事業所と共に全力でこの事業の成功を支えていきたいと思っています。



社会福祉法人明星会
相談支援センターエール
所長 露木とし様

一番印象に残る地域移行支援の事例をご紹介します。「若さの秘訣を教えてください」と尋ねたところ「そうねえ・・・働くことだね」と笑顔で答えてくださったSさんは、もうすぐ89歳。30年以上過ごした入所施設からグループホームへと地域移行されたのは81歳の頃でした。日中は障がい者通所施設と介護保険のデイサービスを併用され、休日はグループホームや移動支援での外出を楽しみに生活されています。出会いから10年の間に白髪から黒髪へと若返る様子もありました。入所施設での生活を振り返りながら「私は今が青春ですね」と、現在も意欲的に働いています。これからも「県西部地区 地域生活移行推進事業」で、地域の支援者の方々と一丸となって、入所施設からの地域移行支援を進められることを楽しみにしています。

手から手へ

～いつも応援して下さるあの人のストーリー～

皆さんは、宝安寺社会事業部の歴史を描いた本があることをご存知ですか？
小田原市出身で、新聞記者の宍倉正弘さんという方が手がけてくださったものなんです。
このコーナーの名前の由来にもなっています。
そんな、長年当法人を見守りながら、『福祉ほうあん』の編集指導もしてくださってきた
宍倉さんが、今回、忘れられない思い出の一つを文章にしてくださいました。
平成23年秋、台風で倒れた小田原愛児園の桜との「お別れ会」での園児とのエピソードです。



宍倉 正弘様

ししくら・まさひろ ● 1934 年、
小田原市生まれ。小田原高校、早
稲田大学卒。産経新聞社記者、
編集委員、日曜版編集長を経て、
定年後も小田原にて執筆活動を続
ける。著作『手錠』（講談社）。



倒れた桜の木と園児一人ひとりが触れ合っ
てお別れをする会。宍倉さんも一緒に
お別れしてくれました。

宝安寺、倒れた桜の大樹

懐かしいなあ。
この写真は、宝安寺の山門が再建されて間もなく、台風被害で境内の桜の大樹が倒れた、その翌日のシーンです。小田原愛児園の園児たちは、倒れた桜のそばで、「サクラさん、長いこと有難う」と、声をそろえてお別れの言葉を言っています。
この桜は、実は由緒ある樹なのです。『手から手へ』にも登場しています。昭和28年3月、高松宮ご夫妻が、小田原大火の復興視察を兼ねて宝安寺の小田原愛児園にお立ち寄りになりました。園児たちは、宮様ご夫妻を元気にお迎えしました。その時の

記念植樹がこの桜の苗木です。それが大樹に育っていたのです。
倒れた桜と、園児たちとお別れを考えた望月郁文理事長（当時）は、『手から手へ』の筆者にも、このお別れの会を持つと連絡してくださいました。筆者は、集まった園児たちに「この大きな幹に触ってごらん。温かいよ」と語りかけ、園児たちは「ホントだ。温かい！」と大騒ぎになりました。植物にも生きる力がある、倒れてもまだ生きようと頑張る。そんな生命力を考えるひと時でした。この時の様子は、筆者の胸の中にいつまでも残り、郁文理事長が逝去された時、ご霊前で申し上げた弔辞にも、このときの様子を織り込まさせて戴きました。

『手から手へ ～光る海のまちの物語～』 神奈川新聞社／かなしん出版／1991 年

いまだ知られていない当法人の黎明期（明治33年）からの歴史、草の根の福祉事業の歴史を生き生きと描いた本です。明治・大正・昭和の小田原の町や市民生活の歴史を情景豊かに織り交ぜながら、地域に涵養され育った当法人の精神、地域のご縁の中で続いてきた法人の姿が浮かびあがります。「傍観者ではいられなかった、ただそれだけ」という言葉どおり、ひたすら精力的に活動し続けた望月正道（初代理事長）の、神奈川文化賞受賞を記念して出版されました。

このコーナーの名前の元となった本です。



令和4年度 決算報告

貸借対照表（単位：万円）	
流動資産	74,109
固定資産	300,718
資産部の合計	374,827
流動負債	14,918
固定負債	37,053
純資産の部合計	322,856
負債及び純資産の部の合計	374,827

事業活動計算書（単位：万円）	
サービス活動収益計	153,534
サービス活動費用計	151,307
サービス活動増減差額	2,227
サービス活動外収益計	3,235
サービス活動外費用計	1,719
サービス活動外増減差額	1,516
経常増減差額	3,743
特別収益計	2,596
特別費用計	2,582
特別増減差額	14
当期増減差額	3,757

決算の詳細については
ホームページをご覧ください。

<https://houan1900.jp/about/disclosure/>



パン工房グウテの焼きドーナツ

～お歳暮や贈答用に喜ばれる逸品～

①



① お歳暮・贈答用セット L ¥3,150

プレーン・足柄茶・チョコ・キャラメル・シナモン・レーズン
各種 3 個ずつ 合計 18 個

② お歳暮・贈答用セット M ¥2,100

プレーン・足柄茶・チョコ・キャラメル・シナモン・レーズン
各種 2 個ずつ 合計 12 個

▲ 消費税、送料などは別途いただきます。
また、焼きドーナツの種類についてもご要望があればお伝えください。

②



お歳暮や贈答用に日持ちのする焼きドーナツ(消費期限1か月)は、いかがでしょうか。のし紙を付けての梱包や宅急便での配送、パン工房での受け取りなど、用途に合わせた対応が可能な商品です。

ご予約・お問い合わせ先

ほうあん第一しおん
パン工房グウテ

TEL 0465-29-0146

FAX 0465-29-0705



「まちがえちゃってもまあいいか」

「注文をまちがえるなんて変なカフェだな」
きっとあなたはそう思うでしょう。

このカフェで働く人たちはみんな認知症の方です。

ときどき注文をまちがえるかもしれないことをどうか、ご承知ください。

そのかわり、地域の素材にこだわったおいしい料理でおもてなします。

「こっちもおいしそうだし、まあいいか」…そんなあなたの一言が聞けたら。
そのおらかな気持ちが、日本中に広がることを願っています。

今年度も
開催します!

2023
11/23
(木・祝)

＼昨年度の様子／

時間 11:00～16:00 (ラストオーダー 15:30)

場所 ほうあん地域支援センター むすび処茶のまる
小田原市本町2-4-12 ほうあん地域支援センターまる1階



社会福祉法人 宝安寺社会事業部

〒250-0004 神奈川県小田原市浜町1-4-38

TEL:0465-22-7667(法人本部) FAX:0465-24-4411

https://houan1900.jp

houan1900

